



環境教育

1 環境教育の現況と課題

環境教育は、人間と環境とのかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育の取組が活性化しています。特に、各主体が協働して行う身近な地域の特性を活かした学習が進み、体験型学習や地球規模の視野に立った学習も広がりつつあります。学校では、体験を重視し身近な環境や地域に眼を向ける環境教育が、「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業においても、環境マネジメントの視点から環境教育に取り組んでいるところもあります。市町村でも、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動・NPO活動等地域の行動へと広がりつつあります。

県では、これら各主体の環境教育・環境学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための施策を展開しています。

2 環境教育に関する県の取組

1 環境情報の提供と相談対応の推進【環境計画課】

■ アジェンダ21かながわ環境活動支援コーナー（愛称:かながわエコBOX）の活動

県では、環境団体等の活動を支援し、環境分野に関する相談、情報提供機能を充実強化するため、横浜駅西口の「かながわ県民センター」9階に、「アジェンダ21かながわ環境活動支援コーナー（愛称:かながわエコBOX）」を設置し、「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」と協働して運営しています。

このコーナーは、地球温暖化防止活動推進員や環境団体等の活動拠点であるとともに、「新アジェンダ21かながわ」（P103参照）や地球温暖化、環境教育など環境分野全般の相談、マイアジェンダ登録（P104参照）の普及、パートナーシップによる取組をコーディネートする窓口としての業務を担っています。また、ホームページを活用した情報提供も行っています。

県民はもとより、企業、NPO、学校などにも気軽に活用していただくことで、「新アジェンダ21かながわ」の「環」が広がり、身近な環境配慮活動が進むことを期待しています。

アジェンダ21かながわ環境活動支援コーナー（愛称：かながわエコBOX）の概要

- (1) 場所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター9階
- (2) 電話：045-321-7453（直通）
- (3) E-mail：agendacorner@kccca.jp
- (4) 機能：環境団体等の活動拠点機能、環境分野の情報提供・相談、普及啓発、情報交換・相互交流機能
- (5) 取り扱い情報：①新アジェンダ21かながわ全般、②マイアジェンダ登録全般、③地球温暖化防止活動、④環境教育、⑤環境NGO・NPO関係、⑥その他環境分野全般
- (6) 対象者層：県民、企業、NPO、学校、市町村等、県内全域のあらゆる主体を対象としますが、特に、県民、企業、NPOを重点対象としています。
- (7) 運営：県とNPO法人（かながわアジェンダ推進センター）との協働により運営。
- (8) その他：環境に関するイベントや環境活動に対する助成金など、環境に関する様々な情報をホームページから発信します。

「かながわエコBOX」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70237/>
 「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター
 (NPO法人かながわアジェンダ推進センター)」
<http://www.kccca.jp/>

2 地域における環境教育の推進【環境計画課、環境科学センター】

■ こどもエコクラブへの支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境のかかわりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の幼児から高校生まで誰でも参加でき、仲間と活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動（エコロジカルあくしょん）や自主的に行う活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通の学習活動（エコロジカルとれーにんぐ）を行っています。

▶表2-10-1 県内クラブ数及び会員数の状況

市町村名	登録クラブ数	登録人数	サポーター人数
横浜市	6 (8)	201 (278)	31 (40)
川崎市	4 (1)	40 (3)	18 (2)
相模原市	36 (4)	99 (36)	61 (6)
横須賀市	3 (7)	37 (250)	20 (29)
平塚市	0 (1)	0 (96)	0 (3)
鎌倉市	0 (2)	0 (55)	0 (16)
藤沢市	4 (6)	172 (274)	80 (94)
小田原市	1 (1)	52 (51)	35 (45)
茅ヶ崎市	3 (5)	31 (117)	8 (19)
逗子市	1 (0)	13 (0)	4 (0)
秦野市	0 (1)	0 (1)	0 (1)
厚木市	1 (2)	2 (8)	1 (4)
大和市	1 (2)	36 (54)	6 (8)
座間市	0 (1)	0 (6)	0 (2)
南足柄市	1 (2)	3 (5)	2 (4)
綾瀬市	0 (1)	0 (17)	0 (3)
寒川町	0 (1)	0 (3)	0 (1)
合計	61 (45)	686 (1,254)	266 (277)

※ 平成25年度末の登録数、()内は平成24年度末の登録数

■ 環境インターンシップの推進

県では、県内にキャンパスをもつ大学の大学生や大学院生を対象に、環境配慮に取り組む企業における職業体験を通じて、環境保全及び環境問題の解決に必要な意欲及び実践的能力を有する人材を育成する環境インターンシップ事業を行っています。平成25年度は、17大学31名の学生を企業9社に派遣しました。

■ 環境教育・環境活動を実践する人材の育成

県では、環境教育・環境学習による理解と認識を深めるため、環境科学センターの環境学習施設を活用し、講座や教室を開催しています。平成25年度は、地域で環境教育や環境活動を実践する人材を育成するための人材育成講座として「環境学習リーダー養成講座（受講者：28名）」、「環境活動実践講座（受講者：73名）」及び「スキルアップ講座（受講者：57名）」を開催しました。

3 学校における環境教育の推進【子ども教育支援課、高校教育企画課、高校教育指導課】

■ 各教科等における環境教育の実施

学校教育においては、「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科等、学校の教育活動全体を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

具体的には、幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校において、幼児・児童・生徒の発達の段階に応じ、人々の活動と環境とのかかわりなどについて、体験を交えたさまざまな学習活動を工夫・実践することにより、子どもたちが環境について理解を深め、環境や環境問題に関心をもつとともに、環境を大切に、環境保全に配慮した行動がとれるよう努めています。

とりわけ、「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色を生かし、学校周辺の自然観察や環境保全活動、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や公園などの美化活動、ピオトープ作りや生物の調査活動などを通して、問題解決的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

■ 高等学校における特色ある環境教育

県立高校においては、平成25年度から県立高校教育力向上推進事業Ver. IIにおいて環境教育に取り組む「環境教育実践校」として8校を指定しています。指定校では、環境に係る教育活動を行うための研究や、環境に関する意識を高めるための体験活動や講演会、研究機関との連携活動や高大連携などを行っており、積極的に環境教育への取組を進めています。

環境教育への具体的な取組として、森林の維持管理などの実習、太陽光発電を利用した環境学習、「総合的な学習の時間」における「環境」に関する研究等の学習活動、などがあげられます。また、生徒会活動や文化祭等の学校行事などを通じた学校全体でのリサイクル活動や、緑のカーテンなどの取組もあります。

全県的な取組としては、各校での環境問題への取組について生徒が発表し、研究討議などを行う「環境シンポジウム」や、環境問題解決に関するレポートを募集し、表彰を行う「エコライフ・コンクール」の開催などを通して、高校生の環境問題に対する意識の高揚を図っています。

▶表2-10-2 環境教育実践校

区分	説明	指定高校名
環境教育実践校 (Ver. II)	環境と共生し持続可能な社会づくりを担う人材育成に資するため、資源・エネルギー問題、地球温暖化対策、循環型社会づくり等の諸課題や、自然環境保全等を通じた環境教育を実践します。	県立横浜栄高等学校、県立川崎高等学校、県立海洋科学高等学校、県立平塚農業高等学校初声分校、県立三浦臨海高等学校、県立厚木西高等学校、県立海老名高等学校、県立吉田島総合高等学校

4 環境教育を支援するしくみづくり【環境計画課】

■ 環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～*

県では、学校教育を通じて環境・エネルギー等の理解を深め、「自ら考え行動する人」を育成するため、環境・エネルギー等に関して豊富な知識・経験を有する県内の企業・団体等のみなさんに、小・中学校、高校等で実験等を交えた体験型の授業を実施していただく「環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～」を実施しています。

平成25年度は、59校の小・中学校、高校等で体験型の授業を実施しました。

※平成25年度に「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」から改称

横浜市立永田台小学校

永田台小学校では、平成25・26年度「環境のための地球規模の学習及び観測（グローブ）プログラム」に文部科学省より指定を受けて取り組んでいます。このプログラムには世界で約27000校（小学校から大学、企業）が参加しています。水質や大気、土壌、土地被覆などについて観測する活動を通して、観測技術を身に着けるとともに、国際的な観測を行うことで、児童自身が世界の科学者の一員としての自覚と環境について関心を持つことを目的としています。

<活動の内容>

毎日の委員会活動として、5年生と6年生が気温観測と雲量の観察を行って、気温と雲形雲量の関係について調べています。継続的に調べた結果や気づいたこと、考察を校内に発信することで、校内児童の身近な環境への意識が高まっています。

また、グローブの活動を各学年の教育課程に位置づけています。低学年では「楽しんでかかわり、触れ合う機会を多くもつ」中学年では「試行錯誤的にかかわり、生活に生かそうとする」高学年では「見通しをもち、計画的にかかわり、環境をよりよく変えようとする」といった発達段階にあった姿を見据え、様々な学習活動を行う中で、身近な環境、自然事象に目を向け、「作る、できる、発表する」ことだけに満足するとなく、「影響・変容・変革」を求める子どもの育成を図っています。



川崎市立宮内中学校

宮内中学校では、平成15年度より近隣を流れる多摩川を題材に環境教育の一環として「とどろき水辺の学校」として様々な体験学習を行っています。

<実践の内容>

体験学習の1つとして、多摩川の源流域にある山梨県小菅村での沢登りを通した源流体験を実施しています。小菅村及び多摩川源流研究所協力のもとライフジャケットにヘルメットという装備を身に付け沢登りを行います。水温12度前後の冷たい水の中を歩いたり、小さな滝壺に飛び込んだりもします。この源流体験では、自然への畏敬の念や、源流域を守ることの大切さ、そして川を通してつながっている下流域に住む自分たちの責任などについても学びます。

この源流体験の後、実際に付近の多摩川や河口干潟にも足を踏み入れます。こうした様々な体験を通して感じ・考えたことをまとめ、文化祭で発表していきます。近年水質が急速に改善され、アユが毎年遡上するような川になっているにもかかわらず、地元を流れる多摩川に入った経験のある生徒は少なく、最初は「きたない」「くさい」といったイメージを持っていましたが、体験を通して実感することで、多摩川の姿を肌身で感じ、自分たちの手で、自分たちの身近にある多摩川を守っていくという意識が高まってきました。



環境シンポジウム

高校生の環境意識を高め、環境保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成することや、各学校における環境教育を実践・推進する指導者の育成を図ることを目的として開催しています。

平成25年度「第8回環境シンポジウム」（平成26年3月15日開催 会場 国際言語文化アカデミア）

- 高校生のエコライフ・コンクールの表彰
「氷河から考えるエコライフ」で優秀賞を受賞した海老名高校を表彰しました。
- 環境教育の取組について（分科会）
環境教育推進校等における環境教育の取組についての生徒による発表・研究協議を行いました。
- その他
桜美林大学 坪田 幸政 教授による基調講演等を行いました。



高校生による環境宣言